

# 代表委員就任に際して

## 巻・頭・言

令和4年度特許庁技術懇話会 代表委員 加々美 一恵



この度、令和4年度の特技懇代表委員に就任しました、加々美一恵と申します。微力ではございますが、特技懇の発展にできる限り努めて参ります。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナ感染拡大から早2年が経過しました。この間、働き方、仕事の進め方、人との関わり方を含め、社会の様々な面で急激な変化が起きました。特許庁での業務もまた例外ではなく、業務の進め方がこれまでと大きく変化しました。テレワークが日常的となり、お互いの顔を合わせての会話や参加者が一堂に会する会議にとって代わって、Teamsなどオンラインでの通話や会議を行うことが今や通常の光景となっています。対面でのコミュニケーションが減少することでコミュニケーションの質自体が低下することも懸念されましたが、ビデオ等の活用で質の低下を最小限に抑える工夫をし、一方でオンラインだからこそ実現できる長所をむしろ活かすなど、会員の皆様の努力には感銘を受けるばかりです。

特技懇の活動もまた、コロナ禍で大きく影響を受けました。特技懇の大きな目的に「会員相互の親睦と研さんならびに地位の向上をはかりあわせて特許行政に寄与し科学技術の振興をはかる」ことが挙げられますが、特技懇はこれまで、会員相互の親睦や研鑽はもちろんのこと、それにとどまらず外部の各種知的財産関連団体の方々との交流にも力を入れ、裁判所の皆様や

弁理士の先生方をはじめとする、知的財産界の重要な役割を果たす皆様との意見交換や親睦を行ってまいりました。ここ2年は新型コロナ感染拡大によりこれらの活動にも大きく制約を受けてまいりましたが、これまでの諸先輩方がオンライン活用等にご尽力された結果、弁理士会との意見交換を充実した形で継続するなど、現状に柔軟に対応するよう努めております。

しかし、だからといって、庁の業務も特技懇の活動も、かつての対面でのコミュニケーションはオンラインで完全に代替できているのでしょうか。お茶を一杯入れながらの立ち話の際に、思いがけない仕事上のヒントを先輩からいただいたり、小話を楽しみながら、あまり接する機会がなかった同僚とのお互いの信頼関係が醸成された実感を得たり、といった経験をしてきた身からすると、オンラインだけではどうしても埋め切れない何かが残っているのではないか、というのは偽らざる気持ちですが、これは平成一桁入庁という年齢のせいなのでしょう。

特技懇の活動においても、現状でできる限りの努力と工夫を継続し、会員相互の親睦と研鑽、また、会員と知財界の親睦と研鑽を少しでも盛り上げていけるよう、努めて参ります。お茶や食事を楽しみつつ、時には歌を口ずさみつつ、自由に会話ができる日が早く戻ることを祈っております。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。